

この建物は“賭場”をモチーフにしている。
あらゆる人が出入りし、腹を割った交流を建物が促す。

客行とは曹洞宗の入門指南僧の意。

入り口は、腰を曲げて鴨居を潜る設計となっており、

入ることが無抵抗を示す機能を持つ。

すなわち、建物自体が客行なのです。

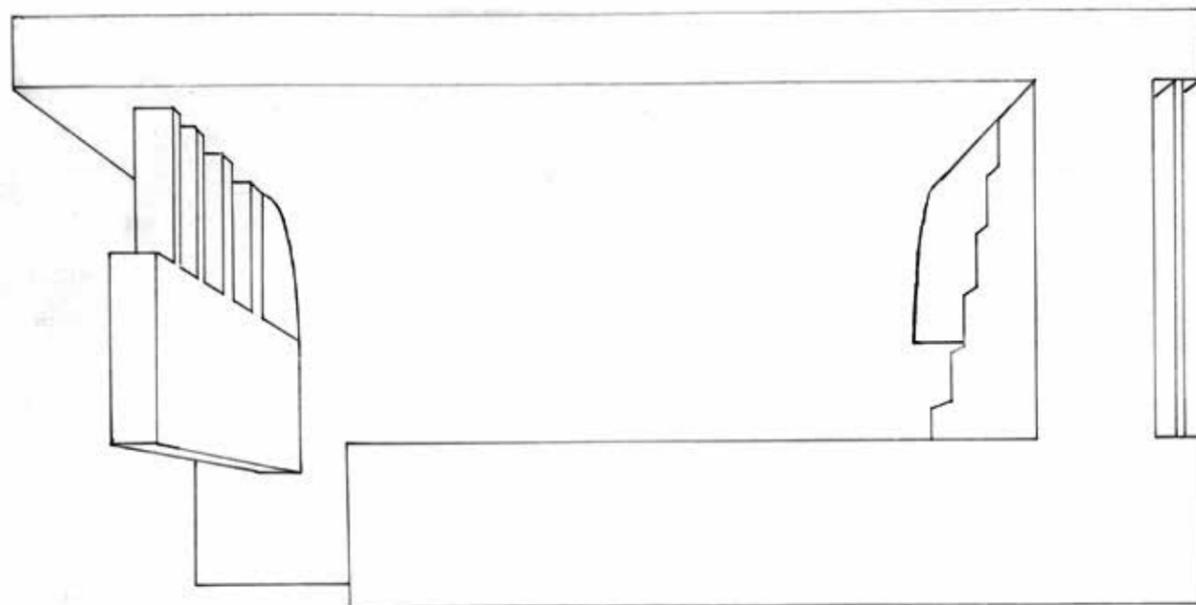
小上がりの一階は天井が低く、

自ずと床に座る姿勢を促し、

腰を据えた話をする空間をイメージ。

階段を登った先の屋上は密な雰囲気の一階との対比がある

丸みのある開放的な空間です。



700mm

